



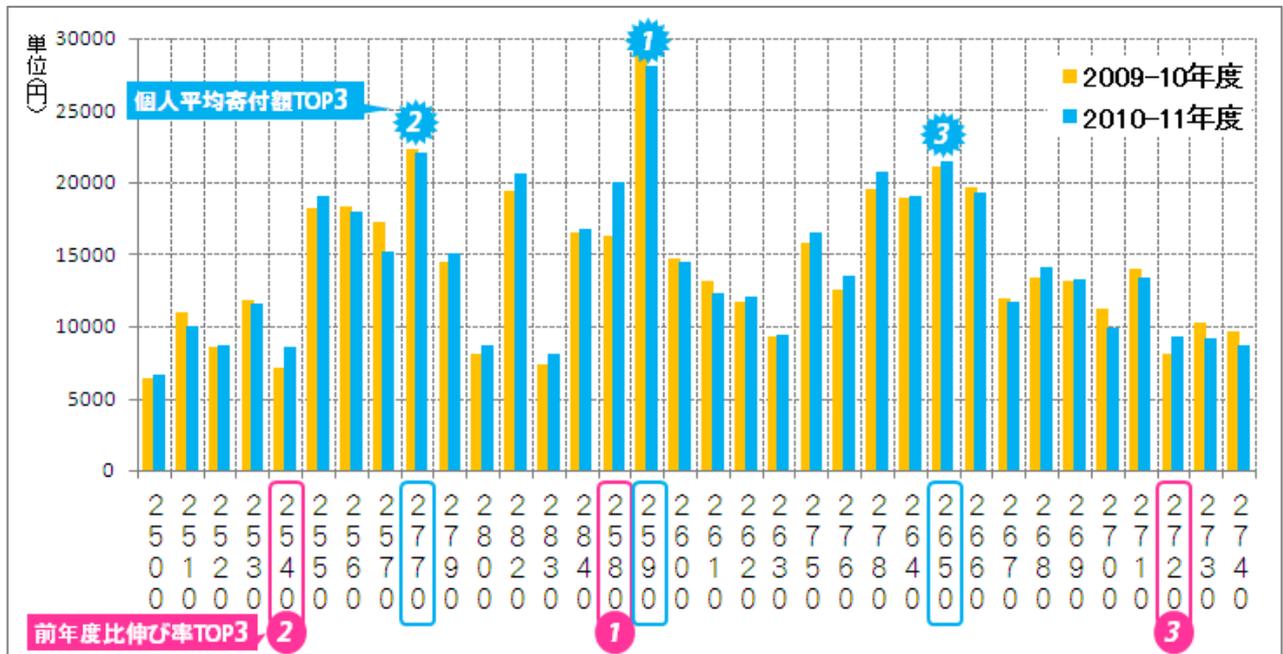
ハイライトよねやま136

1 2010-11年度寄付金結果 — 予算達成に感謝 —

2010-11年度の寄付金は約13億1,400万円となりました。前年度と比べて1.0%減(普通寄付金1.6%減、特別寄付金0.7%減) 約1,300万円の減少です。ただし、今年度の予算額は13億円としていたため、約1,400万円のプラスとなりました。震災復興に向けて日本のロータリー全体が尽力するなか、当会への会員一人当たりの平均寄付額が2万円を超えた地区が5地区、また、一人当たり寄付額の全国平均は前年度より125円上回りました。皆さまのご努力に心より御礼申し上げます。新年度も引き続きご協力賜りますようお願いいたします。

■個人平均寄付額が2万円以上の地区：2590、2770、2650、2780、2820地区

■地区別個人平均寄付額(前年度比較)のグラフ



2 米山梅吉記念館内の米山パネルをリニューアル！

米山梅吉記念館に展示させていただいている当奨学会の紹介パネルを、7月から9年ぶりにリニューアルしました。新パネルは明るく爽やかな色づかいで、写真を多く掲載しています。事業内容の詳細は、わきに置いたパンフレット(日本語と英語)でご覧いただけます。館内順路の最後にありますので、ご訪問の際はぜひご覧ください。※同記念館と米山記念奨学会は別法人です



お知らせ 学友からエピソード募集中。カウンセラーからの応募も歓迎！

米山奨学生・学友に対し、カウンセラーや世話クラブのロータリアンとの心温まるエピソードを募集しています。寄せられたエピソードの中から、『ロータリーの友』の“よねやまだより”のページで毎月紹介します。カウンセラーや世話クラブ会員の方からのご応募も歓迎します。奨学生との忘れられない出来事、心から感動した瞬間など、具体的にお書きください。字数不問。郵送・FAX・eメールで。応募締切は2011年8月31日(水)。

3 感動を呼んだチャリティーコンサート — 沈 媛さん —

中国で電子オルガニストとして活躍する米山学友、^{シンユアン}沈媛さん（2010-11 / 習志野中央RC）の東日本大震災チャリティーコンサートが7月2日、四谷区民ホールで開催されました（主催：北京大学日本校友会）。450席のチケットは完売で、満席の会場には、千葉から応援に駆けつけた第2790地区のロータリアン、学友・奨学生の皆さんと、沈さんの志に共感して協賛した東京米山友愛RCはじめ、第2750地区のロータリアン、学友の皆さんなど、総勢110名ものロータリー関係者が集いました。



コンサートは、中国からの留学生の朗読の後、沈さんが演奏する構成で行われ、留学生の皆さんの日本への思いの深さと、沈さんの迫力ある見事な演奏に、会場は大きな感動に包まれました。演奏後、沈さんは大学への感謝とともに「私は、ロータリー米山記念奨学生です。お世話になったことを本当に感謝しています。米山は私の誇りです。今回の震災で、自分にできることをしなければならなかったのです」と、涙に声を詰まらせながら語り、会場から大きな拍手が贈られました。



終了後、第2790地区米山記念奨学委員会の中村俊人氏の計らいで、ロータリアンや奨学生・学友が見守る中、カウンセラーの新井ミエ氏から沈さんに、博士号取得記念の腕時計が贈呈されました。

4 在米中国人学友から1万ドルの義援金 — 第2630地区 —

第2630地区（岐阜県・三重県）の内藤篤米山奨学委員長のもとに、ニューヨーク在住の学友から岐阜市内の知人を介して、東日本大震災への義援金1万ドルの小切手と手紙が届けられたのは3月末のこと。内藤委員長は、その手紙を読んで、胸が震えたと言います。

「大地震・津波・原発事故のニュースに接し、心よりお見舞い申し上げます。20年前、米山奨学生として岐阜RCにお世話になり、カウンセラーの高橋さんにご家族にも大変良くしていただきました。医学博士の学位取得も皆さまのおかげと胸に刻んでおります。少しですが、義援金を送り、昔日のご厚情にお応えしたいと思います。被災地の再建を心よりお祈りしています」



送り主は、ニューヨークの医科大学院に勤める李娜さん（写真・中国 / 1991-92 / 岐阜RC）。李さんと同じ研究室に勤務する同僚からの1,000ドルの小切手も同封されており、合計90万円を超えるこれらの義援金は、すべて世話クラブの岐阜RCに託されました。

5 「学友が語る 母国の女性の自立支援」動画を公開

16,000人を超える米山学友の中には、国は違っても、同じ目的を持ち、母国の人々を支援している学友が少なくありません。今回、その中から2人の学友をお招きして座談会を実施しました。



ラオス出身のチャンタソン・インタヴォンさんと、ネパールのアルチャナ・シュレスタ・ジョシさんは、共に母国の貧しい女性のための職業訓練センターを設立。すでに多くの女性が訓練を受け、自立を果たしています。この座談会の模様を約13分に編集して、当会ホームページで動画配信しています。ぜひご覧ください。（DVDもあります）